

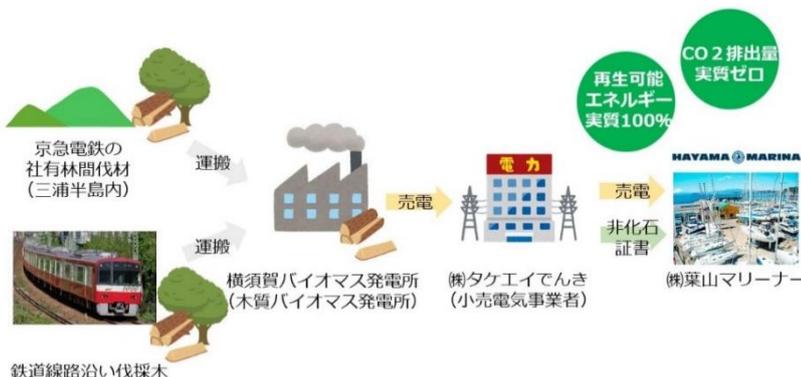
## 三浦半島の社有林活用「みうらの森林(もり)プロジェクト」第2弾 「葉山マリーナ」が地産地消の再エネ100%電力に切り替え 鉄道事業における線路付近の伐採木もバイオマス発電に活用します

京急グループの株式会社葉山マリーナー（本社：神奈川県三浦郡葉山町、取締役社長：壽浅 実、以下 葉山マリーナー）は、「みうらの森林(もり)プロジェクト」の一環として、2023年4月1日（土）からすべての使用電力を、社有林伐採木を一部に活用したCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロの再生可能エネルギー電力（木質バイオマス由来）に切り替えます。京浜急行電鉄株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：川俣 幸宏、以下 京急電鉄）では、すでに一部の事業活動において再生可能エネルギー由来の電力を導入していますが、グループ会社としては初めての導入となります。

京急電鉄は、持続可能な社会を目指し、三浦半島に所有する都市近郊社有林を健全に管理する「みうらの森林プロジェクト」を2023年2月から開始しています。伐採した木々は株式会社タケエイグリーンリサイクル（本社：神奈川県横須賀市、代表取締役：秋庭 勉）が運営する「横須賀バイオマス発電所」において木質バイオマス燃料（木質チップ）として発電の一部に使用されており、このたび、葉山マリーナーは、株式会社タケエイグリーンリサイクルとグループを同じくする電力小売事業者「株式会社タケエイでんき」（本社：東京都港区芝公園、代表取締役：古舘 将司）より、本発電所由来の環境価値（トラッキング付FIT非化石証書）が付帯された電力を導入することで、電力由来のCO<sub>2</sub>排出量が実質ゼロとなります。

このように、横須賀でバイオマス発電した電力を葉山で使用するという、エネルギーの川上から川下までが三浦半島地域で循環する一連の流れは、エネルギーの地産地消を体現しています。さらに、京急グループでは、長期環境目標として「京急グループ 2050年カーボンニュートラル」を掲げており、本取り組みを通じたCO<sub>2</sub>排出量の年間削減効果は約300t-CO<sub>2</sub>に相当するなど、脱炭素社会の実現に寄与します。また、2023年5月以降順次、京急電鉄が列車の安全運行のため伐採する線路付近の樹木などを、同じく「横須賀バイオマス発電所」で木質バイオマス燃料として活用し、さらなる循環型社会への貢献を目指します。

京急グループは、本プロジェクトを通し、健全な森林の管理を行うことで、未来へつながる機能豊かな美しい森林を目指し、今後も取り組みを進めてまいります。詳細は別紙のとおりです。



電力供給イメージ



葉山マリーナ

## みうらの森林（もり）プロジェクト第2弾

### 葉山マリーナへの再エネ導入・鉄道事業で発生する伐採木のバイオマス発電燃料化について

#### 1. 葉山マリーナへの再生可能エネルギー導入について

##### (1) 概要

みうらの森林プロジェクトの一環として今回葉山マリーナが株式会社タケエイでんきから導入する電力は、木質バイオマス発電によって得られる再生可能エネルギーを事業者向けに販売しているもので、バイオマス発電由来の環境価値を活用することで、実質的にCO<sub>2</sub>排出量がゼロとなります。

##### (2) 実施時期

2023年4月～

##### (3) 対象

葉山マリーナにおける施設全体・業務用電力量

※業務用電力：事務所内照明、空調、ハーバー内船舶用クレーンなどが対象

##### (4) 導入電力

タケエイでんき 再生可能エネルギー（木質バイオマス発電）

※トラッキング付FIT非化石証書（横須賀バイオマス発電所由来）

#### 葉山マリーナー概要

企業名称 株式会社葉山マリーナー

設立 1963年9月（開業：1964年7月）

所在地 神奈川県三浦郡葉山町堀内50-2

事業概要 マリーナ施設「葉山マリーナ」の運営

敷地面積 25,162 m<sup>2</sup>（延床面積3,637 m<sup>2</sup>）

建物 本館（地上3階，地下1階），イエローハウス，修理工場



##### (5) 削減相当量（年間）

約300t-CO<sub>2</sub>（使用電力量：約71万kWh，一般家庭約110世帯分※）

※環境省「令和3年度 家庭部門のCO<sub>2</sub>排出実態統計調査」から算出

#### 2. 鉄道事業で発生する伐採木のバイオマス発電燃料化について

みうらの森林プロジェクトの一環として、京急電鉄で列車の安全運行のため伐採する線路付近の樹木などを、株式会社タケエイグリーンリサイクルが運営する横須賀バイオマス発電所の「木質バイオマス燃料（木質チップ）」として発電に使用することで、さらなる循環型社会への貢献を目指します。



線路付近伐採の様子

(参考)

## 「みうらの森林（もり）プロジェクト」について



### 1. 概要

- (1) 名称 「みうらの森林プロジェクト」
- (2) 開始時期 2023年2月
- (3) 目的 健全な森林の管理を行うことで、森林の有する二酸化炭素吸収機能の一層の発揮を目指し、生物多様性を維持しながら機能豊かな美しい森林を目指します。
- (4) 内容 森林管理の間伐材を、バイオマス発電に活用し、さらに整備した森を親子の山遊びに活用します。
- (5) 協定 本取り組みにともない、関係者にて連携協定を締結しました。

イ. 協定名称 「森林整備等に関する連携協定」

ロ. 目的 都市近郊社有林における将来の保全、活用について、調査、実験等を行うことにより、都市近郊社有林を中心とした持続可能な社会の形成に寄与する

- ハ. 内容
- ①都市近郊社有林を活用した施策の実施
  - ②将来の適正な森林整備方針の検討
  - ③都市近郊社有林を拠点とした持続可能な社会の形成に資する取組み

ニ. 締結日 2023年2月

ホ. 関係者と役割

関係者	役割
神奈川県森林組合連合会	森林調査、森林管理、その他森林に関するアドバイス
株式会社タケエイグリーンリサイクル	バイオマスエネルギーに関するアドバイス
農林中央金庫	森林経営および活用に関するアドバイス
京浜急行電鉄株式会社	都市近郊社有林の保有、管理

(6) 進捗と今後の展開予定

イ. 間伐作業

- ・神奈川県森林組合連合会の協力のもと、適切な間引きなど森林管理を行い、太陽光が地面に差し込む環境を作ることで、森林の若返りを図っています。(2023年2月から開始)



## ロ. 薪や木工ワークショップ

間伐した木々は、「木質バイオマス燃料」として発電に活用されるほか、京急グループの三崎観光株式会社が運営する「京急油壺温泉キャンプパーク」にて、薪として夏ごろの一般販売を目指しています。またウッドワークショップ体験と、手づくり木工品の販売も予定しています。(2023年3月時点)



## ハ. 山あそび

間伐後の森林を活用し、身近な自然で遊ぶ場「原っぱ大学」を展開する HARAPPA 株式会社と共に、親子で遊ぶコンテンツ開発を目指し親子モニターとあそび場づくりを行いました。(2023年3月)



## (7) 会社概要

### イ. 横須賀バイオマス発電所

所 在：神奈川県横須賀市浦郷町

売電開始：2019年11月

発電出力：6,950kW

概 要：生木由来の廃棄物や原木・林地残材等を燃料とする都市型バイオマス発電所

運 営：株式会社タケエイグリーンリサイクル



### ロ. 株式会社タケエイでんき

本 社：〒105-0011 東京都港区芝公園二丁目4番1号 A-10階

代表取締役：古舘 将司

設 立：2019年4月

資 本 金：1,000万円

株 主：株式会社タケエイ

事業内容：小売電気事業 登録番号 A630 森林間伐材や未利用材、公園剪定枝、また、建設廃棄物由来の木質チップを燃料とした木質バイオマス発電によって得られる再生可能エネルギーを、地域へ供給し、「電力の地産地消」を実現しています。また、同社を含む TRE グループは、地元・周辺自治体や林業事業者の皆様と連携し、燃料材の安定調達体制を構築しているほか、発電時に発生する余熱で農作物の栽培なども行っています。